

きれいな色！面白い影！

「科学する心」が育まれる子どもたちは、自ら環境に関わり、よく観察し、様々な感覚・感性を働かせて感じ取ったことをのびのびと表したり、感じたことを活かして新たな発想で表現を楽しんだりします。この事例から、子どもたちは溢れる表現活動により探求を深め、その後の類似場面で体験を活かしていることが分かります。「きれい」「面白い」と感じて意欲的に関わる子どもたちは、「もっと～したい」と表現するようになり、「科学する心」が育まれる体験を重ねています。

子ども（2～5歳児）

そあ保育園

表現遊びの基盤になる環境として、いつでも紙や布に絵の具で描くことを楽しめる環境がある。

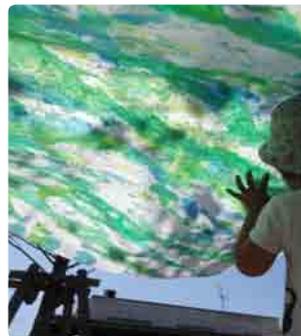
※ P.21 園庭の環境「わくわく広場」参照



場面1 【探索】

子どもたちが布に思い思いの絵を描いた。保育者がその布を戸外に出し、太陽に当て乾かそうとした。すると、その広げた布の中に入った子どもは、柔らかい綺麗な色に包まれた。布を被り、庭を歩くと、布の中に木々や人の影、日の光が現れた。

「葉っぱが揺れている!」「あれ?木が映っているよ!」と、**子どもたちは気付いたことを言葉や体で表現する。**



場面2 【探求・表現】

色が透ける様子を見て楽しむ子どもたちを見ながら、保育者は布を持ち移動する。布の場所や動く様子により、布を通して見える色彩や影が変わることに気付き、子どもたちは更に喜び、手をかざしたり布を動かしたりして、自分から関わりいろいろな動きを楽しむ。

「水槽の中に入ったみたい」「お家みたい、ここで暮らしたいな」「電車にもなるよ」と言う子どもがいる。子どもたちは様々な感覚・感性を働かせ、布の場所、日の光と影など微妙に変わる様子を感じ取る。布に手や体をかざすことで、更に**様々な言葉や体で表現して友達と関わり、体全体で感じた透過された色彩や映し出される影の美しさを共有する。**

(その後の場面 P.21)

【考察】 思い思いに描画遊びを楽しんだ子どもたちは、場所が変わることで変化した色や光、影を感じ取り、心を動かし楽しんでいる。**不思議さや美しさを感じ関わる子どもたちの姿から「科学する心」が育まれる感性**を捉えることができる。思わず現れる言葉や動きは、次第に気付いたことや考えたことを表わす「表現」になり友達や保育者に伝わる。**心を動かし、新たな発想で表現している体験は創造性の芽生え**に繋がっている。

子どもがのびのびと表現をする姿に、大人が感動する場面があります。それは、大人の予想を超える程の表現を、子どもたちが生き生きと楽しむからです。この事例の園は、「子どもたちが感覚を発揮して、繊細な表現活動をいつでも重ねられる」ように、園庭に基盤となる環境を設け工夫しています。そして子どもは、自然や出来事、ものに興味深く関わり、様々な美しさや不思議さを感じながら探求を重ねて表現を楽しみ、感性や創造性が育まれています。このように、子どもの表現を丁寧に捉えることは、「科学する心」が育まれる体験の把握に繋がります。

保育者（感じたことを表わすために）

そあ保育園

保育の中で考える『表現』

かけがえない人の営みであり、喜び、感じたことを思いのまま、のびのびと自由に表す、そのプロセスを何より大事にする。

色や形、質感や香り、明るい歌や懐かしい音、そして、素材と道具。全てが子どもの想像力を刺激する。

「科学する心」から考える『表現』

- ・ 感じたことを外へ表出する
- ・ 表現する喜びを味わう
- ・ 異なる思いや考えを吸収する

園庭の環境 [のびのび自由に表現活動ができるスペース]

○わくわく広場…屋根のある広い空間

絵の具等での表現遊びをのびのびと楽しむ環境。

この中で、2歳以下の子どもは思い思いに三輪車やお家ごっこができる。年上の子どもの豊かな表現を感じると、自然に引き込まれて見たり一緒に描いたりする。

○オープンハウス…屋外ステージのような空間

音や声、全身などで、様々な表現を楽しめる環境。更に自分の表現を「伝えたい」「見て欲しい」という思いを実現できる空間。ここで表現する子どもたちの姿や様子に魅力を感じると、自然に観客になることや一緒に動くことができる。表現が伝わった喜び、共有した喜びを感じる体験ができる。

「科学する心」についての考え方

「発見、疑問、表現、そして、(新たな)発見へ」と繰り返しながら、物や現象の本質を自らの感性で見極めていくのではないかと考える。

<保育者> 子どもに寄り添った援助の変容

① (P.20 場面1)

わくわく広場で描いた絵を、屋外で乾かす援助をする。

② (P.20 場面2)

乾かす布で楽しむ子どもを捉え、気付きや感じていることに添って楽しむように、布を動かし援助する。

③ (その後の場面)

布で透かして見える色や影を楽しむ体験を、影遊びや色を映す遊びに広がるタイミングを見て援助する。

<子ども> 「あの影やろうよ」

(P.20 場面2の後)

絵の具絵を空にかざして楽しんだことを思い出した2歳児Aさんが「あの影やろうよ」とバンザイのポーズをしてやってくる。

気付いた4歳児Bさんが「綺麗な布でやったやつだよ」と言うと、Aさんはうなずく。

保育者が布を出すと、布に映る自分の影を楽しむ。

以前の影を映す遊びを真似て再現する。



新たな発見と表現



あれっ、僕は映ってない？



反対側のお客さんに見せよう



⇒ Aさんの姿

